

テーマ5 まちづくりとして有機的な働きをもたらす庁舎

みんなでつくり、みんなを使う「まちづくりプラットフォーム」

ふれあいセンターは、市民が気軽に自由で活発な活動が行える施設として親しまれてきました。新庁舎と中央公園を隣接させることで、その活動を「まちづくり」へとつなげていく「まちづくりプラットフォーム」へと進化させ、ふれあいセンターを有効に使いきります。さらに、元気こころ館を含め既存の施設、街路、公園を活かしたまちのネットワークを構築し、旧駅前エリア、市内全域へと活動を広げ、あらゆる人々が、様々な場面を共有できる新たなまちづくりを推進します。

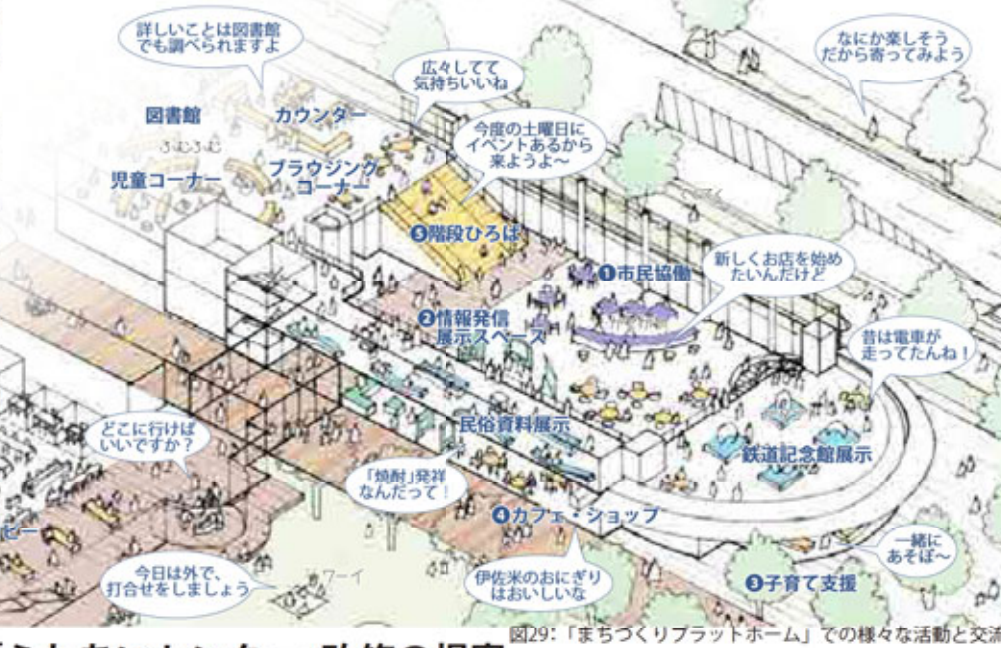


図29:「まちづくりプラットフォーム」での様々な活動と交流

1. 2つのステップによる「ふれあいセンター」改修の提案

ふれあいセンターの改修は、市民や利用者、伊佐市の相互合意が必要と考えます。私たちは次の2つのステップを踏むことで、費用対効果の共通理解を得ながらの改修を提案します。

STEP1 今回提案
ふれあいセンターの庁舎利用により生み出す新庁舎建設コストで、吟味した改修を行い、現状を維持しながら利便性を高める改修を提案します。

STEP2 設計段階での検討
今回の提案をベースとしながら関係者で議論を行い、機能変更やフロアの変更、外観の美装など、コストを提示しながら改修内容を確定させます。

1F: 市民協働・活動フロア
南側のアトリウムは、市民と職員が多様に活動できるワンルームの市民協働の場とします。北側諸室は利用状況を踏まえた、機能的で明るい快適な環境とします。



図30:階段ひろばのイメージ



フィットネスゾーン(トレーニング+ダンス+シャワー)
トレーニングとダンスルームは既存を継承。シャワー・更衣室は仕上と設備を改修し、清潔で使いやすく。

アトリウム
既存の開放的な大空間を活かしながら、5つのスペースを緩やかにゾーニングして配置します。

- ①市民協働: 市民・NPO団体・市職員が協働するまちづくり事業などの拠点。
- ②情報発信: 子育て情報、就職情報、空き家・空き店舗情報など、市民生活に欠かせない情報を発信。展示スペース: 個人や市民団体の活動報告や作品を展示。
- ③子育て支援: こどもの遊び場、子育て情報コーナー、相談スペースなどを設置。
- ④カフェ・ショップ: カフェ(食卓)、ショップなどとともに近隣中高生の学習の場としても利用。
- ⑤階段ひろば: 2F ガラリーとも連動して、チャリティーコンサート等を開催。

アトリウムの空調
冷温水を循環させ、空気を吹き出さない除湿型放射冷暖房を提案。居住域空調による健康で快適な居住環境と省エネルギーを両立。

既存浄化水槽の活用
十分な余裕があるため、新庁舎分もまかなう提案により、新設費用約3000万円を削減。

2F: 図書館・展示フロア
階段ひろばで1階アトリウムと結ぶ、開放的な図書館と民俗資料展示スペースを融合した学びの場

図書館のオープン化
閉架書庫を北側に移設、AVコーナーは、一般書籍と合わせてレイアウトを見直し、入りやすいオープンな設えに改修。

図書館のICT環境整備
将来的な図書館のIC化なども視野に入れ、ICT環境を整備。

展示回廊+展示スペース
廊下と現PR課を一体的な資料展示スペースとして有効活用。現状よりスペースは縮小し、内容を絞った企画展示により運用。

図書と資料の融合
図書館内の資料展示や展示スペースでの書籍紹介などを検討。



3F: ホール・会議共用フロア
多目的ホールや会議室を集約し、市庁舎・ふれあいセンターで共用利用します。

会議室
既存の視聴覚室も含めて、多目的に使える会議室を集約。可動間仕切での柔軟な運用も可能。

多目的ホール
AV設備やICT設備の充実化。時代のニーズに合ったイベントの開催や配信に対応。

4F: 職員専用フロア
窓のない4Fは倉庫や書庫を集約し、職員の専有とし、管理区分を明確にします。

收藏庫
民俗資料の收藏庫を拡張し、2Fの展示機能を補充。

備蓄倉庫
食料、飲料水、毛布など災害時の備蓄品を収容。

書庫・倉庫
業務での使用頻度の低い公文書を保管。養子庁舎や他の公共施設の書類・物品の保管庫としても活用。

図31:ふれあいセンターの価値を最大化する改修プラン

2. 伊佐市のにぎわいを発信する「顔」として中央公園を再活性化します

旧駅前大通りに中央公園を今以上に広くして配置し、市民の活動が主役の、地域性のあるにぎわいを創ります。

- イベント利用も可能「芝生ひろば」**
福かざり、春の市、夏祭りなど季節のイベントの会場としても利用できる様に段差を無くし、「まちづくり」活動の屋外拠点になります。
- 伊佐市を世界に発信「バスケットひろば」**
防球フェンスなど安全対策したバスケットコートを整備し、道路から良く見える配置とすることで、「井上雄彦の出身地=伊佐市」をアピールします。
- 地域で子どもを見守る「遊具ひろば」**
地域産材を活用した藤棚や遊具などにより、地元への愛着が深まる計画とします。また、どこからでも子どもを見守りやすい位置に配置します。
- 憩いの居場所にもなる「バスまちひろば」**
バス停留所の集約は協議により詳細を計画します。また、公園の休憩所と兼ねたバス待機所を整備し、気軽に憩える居場所とします。
- 「木陰ひろば」**
木漏れ日の下でベンチに腰掛けくつろぐことのできるスペースを計画します。ベンチ作成のワークショップ等地域の方々と共に使い方を検討します。

図32:子どもたちの姿がまちを元気にする、中央公園

3. あらゆる世代をつなぐ新たな「まちづくりプラットフォーム」

市庁舎とふれあいセンターが隣接し、複合的な行政サービスを提供できるメリットを活かし、まちの至るところでの活動と連携し、補完することにより、まちににぎわいの輪を広げます。



- あらゆる世代が交わる市民生活の交流拠点**
周辺施設やまちを利用する人々の年齢層や特性に応じて、あらゆる世代が多様な目的で気軽に立ち寄り、自然に新たな交流が生まれる場をつくります。
- 元気こころ館との機能連携**
こころ館の調理室や和室の共用や福祉機能連携など、有効活用しながら、世代間の交流を促します。
- 周辺市有地、公園、街路を活かしたネットワーク**
既存のトイレ等の利便機能に「ひのきの縁側」を組み合わせ、まちなかに点在させ、互いに見守りながら高齢者も安全に歩けるまちづくりを提案します。
- 地場産材活用**
伊佐ヒノキやスギを内外装に積極的に活用し、林業をはじめとした地場産業の活性化に寄与します。
- 地域産業活性化**
地元企業が施工できる一般的な工法や入手容易な建材を選定し、「市民によるまちづくり」で経済を循環します。
- 全員参加の「まちづくりプラットフォーム」**
設計段階からオープン後まで、あらゆる市民の関心を高め、「まちづくり」に参加したくなるしくみづくりを支援します。



図35:交流の場となる「ひのきの縁側」



図36:木がふんたんに感じられるインテリア



図37:子どもも参加できる庁舎づくり



図38:地域の学生とワークショップ

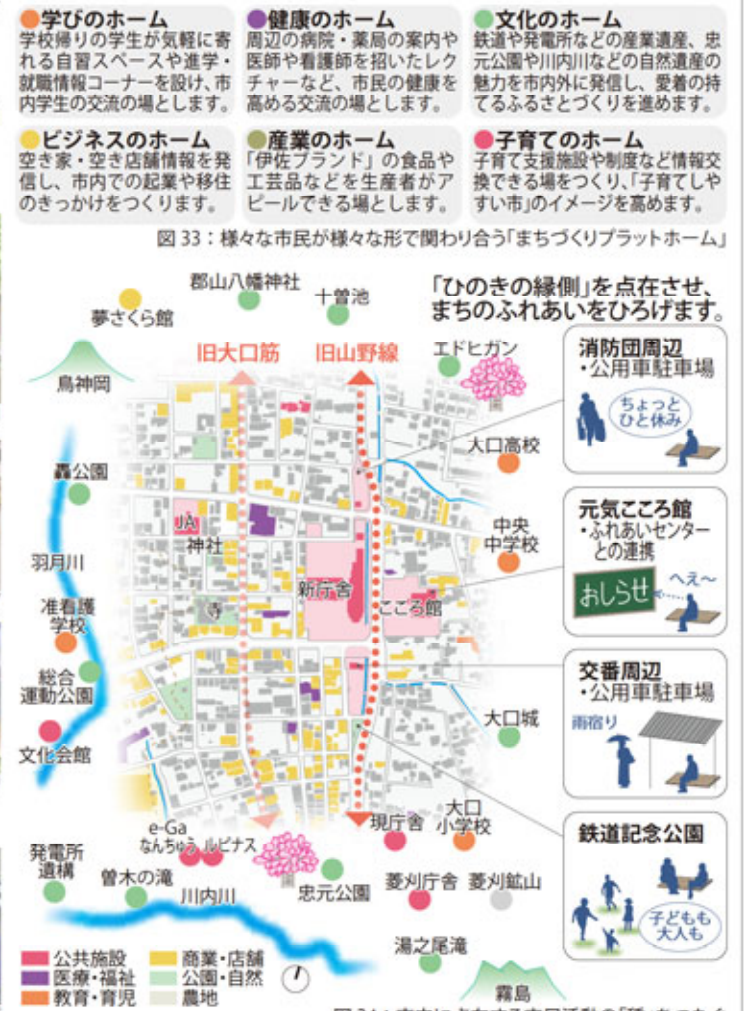


図33:様々な市民が様々な形で関わり合う「まちづくりプラットフォーム」

「ひのきの縁側」を点在させ、まちのふれあいをひろげます。

図34:市内に点在する市民活動の「種」をつなぐ